

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105677
法人名	有限会社 司
事業所名	グループホーム つかさ
所在地	愛媛県松山市浅海原甲405番地
自己評価作成日	平成28年7月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームは海に面して建っており、窓からは広大な瀬戸内海やその島々を眺めることができます。利用者はその雄大な景色を眺めながら、ゆったりとした時間のなかで日々の暮らしを過ごされています。職員は利用者いつまでも生活力を失わず、役割や生きがいを持ち、一人の人として自分らしく暮らしていただきたいと考えています。そのために日々の家事活動や地域の奉仕活動を共に行い、個々の行きたい所やしたいことを大切に、一緒に行える支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

居間の北側の窓からは、海が眺められ波の音もする。又、南側の窓からは、山が見えて風通しもよい。壁面には、夏祭り等のイベント時の写真や地元小学校の広報誌を掲示している。台所からは食事を作る匂いがしており、利用者は居間で多くの時間を過ごしている。廊下の作品は車椅子の利用者の方も見えるように、低い位置に掲示している。

会議には、利用者、家族、区長、市職員、地域包括支援センター担当者、近隣の小学校校長が参加しており、テレビのモニターに写真を写しながら、行事等の報告を行っている。外部評価の目標達成計画を活用し、事業所の困りごとや課題についての取り組みを2ヶ月に1回、自己チェックして、会議の度に参加者にモニタリングしてもらっている。「地域との交流を深めたい」という目標達成計画の内容について話し合った際は、区長から「回覧板の情報を得て、地域との関わりを深めてみては」と提案があり、回覧板を回してもらったことにつながった。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つかさ

(ユニット名) あいユニット

記入者(管理者)

氏名 竹田 友和

評価完了日 28年 7月 10日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人理念や運営理念をホーム内に掲示している。理念に基づき、ご利用者様の役割を大切に活動できるよう配慮している。また毎月の職員会議にて各利用者の対応方法話し合い、その際に理念に沿っているかを考えながら話し合いを行っている。	
			(外部評価) 居間の壁面に「満足のいく生活をする為に個人の自由と尊厳を守り、優しく温かい心を持って接します」という理念を掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事には積極的に参加を行い、特に地域の小学校との交流を中心に取り組んでいる。学校行事は地域と学校の交流活動も多く、それらにに参加させて頂くことで、ご利用者と地域の方との交流も行えている。	
			(外部評価) 小学校の運動会や音楽会を見学に出かけたり、地域の夏祭りに参加したりしている。8月には、事業所の夏祭りに地元の小学生を招待した。利用者は、職員と一緒にゴム金魚すくいの準備をしたり、当日は子ども達と一緒にかき氷を食べたりして楽しんだ。事業所横の空き地に、地域の公園ができるため、法人代表者は、建設に伴う話し合いに積極的に参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において、民生委員の方より近隣の方や知り合いの方の介護について相談を受けるなど、事業所としての理解を得られてきていると思われる。またホーム便りにて認知症についての啓発も行っている。	

自己評価表及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議ではホームの様子を映像や写真で見ただき、その中でどのような支援が行われているかを具体的に話し合えるようにしている。またサービス評価の改善の取り組み状況を毎回報告し、地域の方からの意見を頂くようにしている。</p> <p>(外部評価) 会議には、利用者、家族、区長、市職員、地域包括支援センター担当者、近隣の小学校校長が参加しており、テレビのモニターに写真を写しながら、行事等の報告を行っている。外部評価の目標達成計画を活用し、事業所の困りごとや課題についての取り組みを2ヶ月に1回、自己チェックして、会議の度に参加者にモニタリングしてもらっている。「地域との交流を深めたい」という目標達成計画の内容について話し合った際は、区長から「回覧板の情報を得て、地域との関わりを深めてみては」と提案があり、回覧板を回してもらうことにつながった。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営などの課題が生じた時には電話させて頂いたり、直接市役所に伺うなどして相談させて頂くとともに、関係の構築に取り組んでいる。さらに運営推進会議に毎回出席して頂く際にはホームについて理解して頂けるよう報告や相談をさせて頂いている。</p> <p>(外部評価) 民生委員から認知症の独居高齢者の様子について相談があった際に、聞き取りをして地域包括支援センターへつなげた事例がある。中学生の職場体験学習を受け入れている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 施設の門扉は日中は常に開放し、花を飾るなどして開けた施設の雰囲気をつくらうと努力している。職員は身体拘束になる行為について学ぶ機会を持ち、施錠を含めて取り組みを行っている。しかし言葉での拘束を含め、お年寄りが本当に自由に暮らしていけるホームを目指し、継続して勉強会や日常の中で話し合いを行っていききたい。</p> <p>(外部評価) 身体拘束については、職員会議時に勉強をしている。玄関は施錠せず、日中は自由に出入りができる。昼食時「息子が来る」と言って玄関から外に出た利用者に職員は、止めることなく建物内から見守っていた。</p>	

自己評価表及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員はどういったことが虐待になるか、また繋がっていくかを職員会で話し合ったり、日々の中で管理者と話し合ったりすることで、予防できるように取り組んでいる。今後ご利用者が不快になることも含めて、気持ちよく過ごして頂けるように取り組みたい。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会にて制度の理解を持つようにしているが、職員は具体的に活用する機会はなく、十分に把握しているとは言い難い。実際に対応が必要な方が出た場合に、管理者と共に対応することでより理解が出来るようにしていきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は見学に来て頂いたり、訪問する等して管理者が利用者、家族と十分に協議し、不安や疑問点を解消できるよう話し合いを行っている。また随時話し合う機会を持ち、御家族の不安や心配は都度解決できるようにし、改定などの際はご案内をお送りするとともに、ご相談にも応じるようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者には日々の言葉を記録に残すようにし、家族は介護計画作成会議時、面会時、運営推進会議等に話す機会を設け、また玄関に意見箱を設置し、それらを検討し運営に反映させている。また運営推進会議に参加されていないご家族様には議事録を送付し、内容について知っていただくように取り組んでいる。 (外部評価) 季刊誌には、行事の際の写真や外出の様子、管理者のコラム等を載せており、家族に送付している。月1回、利用者個々の担当職員が手紙で日常の暮らしの様子を報告している。	家族も利用者を支える支援者として、一緒に活動できるような機会作りを工夫してはどうか。

自己評価表及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は毎日の申し送りで日々の悩みを聞いたり、日常の中で職員個々と話をして、意見や提案を聴き、代表者と会議して運営に反映させるようにしている。また、毎月の職員会議には代表も参加し、各業務毎の担当者との意見交換を行い、よりよい運営がなされるよう協議を行っている。	管理者は、「職員がさらに自発的に業務に取り組み、レベルアップを図って欲しい」と考えている。現場職員の気付きや意見、アイデアを活発に出し合えるよう、機会や場作りに工夫を重ねてほしい。
			(外部評価) 8月に事業所内で、緊急時の対応方法や連絡方法等についての研修を行った。そのことがきっかけで、職員から「外部の救命救急講習を受講したい」との希望があり、シフト調整を行い受講できるよう取り組んだ。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業所で独自のキャリアパス制度を導入し、職員が目標を持って働いたり、スキルアップに取り組めるようにしている。さらに代表者は毎月の職員会議に参加したり、管理者と運営会議を行うことで、職員のやりたいことが実現できるようにしている。	
			(外部評価) 管理者は勉強会を行い、新たな知識や技術を学ぶ機会を設けている。また、日常や各担当の業務の状況や悩みを聞く中でアドバイスをし、気づける力を育むようにしている。外部の研修にも年1回の参加を呼びかけ、研修案内を掲示しているが、参加率が少ない為検討が必要である。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は積極的に他事業所との交流を進め、夏祭りなどにも招待して頂いている。しかし、こちらから招待などは出来ておらず、交流する機会も少ないことから、職員同士が交流できる機会づくりを取り組みたい。	
			(外部評価) 代表者は積極的に他事業所との交流を進め、夏祭りなどにも招待して頂いている。しかし、こちらから招待などは出来ておらず、交流する機会も少ないことから、職員同士が交流できる機会づくりを取り組みたい。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用する前に管理者が訪問して、本人の思いを聞く機会を設けたり、見学に来ていただいて他利用者と過ごす時間を持つようにしている。また入所時には担当職員を決め、本人の思いや要望を聴くようにすることで安心していただけるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) サービスを利用する前に管理者が訪問して、本人の思いを聞く機会を設けたり、見学に来ていただいて他利用者と過ごす時間を持つようにしている。また入所時には担当職員を決め、本人の思いや要望を聴くようにすることで安心していただけるよう取り組んでいる。	

自己評価表及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス相談時、見学時、家族宅への訪問相談時に、家族と多く話し合う機会を持てるよう取り組んでいる。その際に不安なことや要望を出来るだけ多く聞くことができるよう取り組んでいる。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は利用相談を受けた際に、御本人の状態や家族の状況、それぞれの思いを聞くように心掛けており、状況に合わせた支援を受けることができるよう相談対応を行っている。ケースに応じて、介護支援専門員や相談員、地域包括支援センターに繋がるよう対応を行っている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は利用者の出来ること、出来ないことを把握するように努め、出来ることを一緒に行えるよう取り組んでおり、それぞれの役割を持って頂くことを大事にしている。ご利用者からは「忙しい?」「大変やけん手伝うよ」と労わって下さったり、一緒にしようとされることが多い。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は面会時に近況の報告をしたり、毎月の行事、生活、受診の様子を手紙でお送りするなどして、本人の様子を知って頂けるよう取り組んでいる。さらに介護計画作成会議の際に一緒に本人を支援する方法を考えていただいている。面会の少ないご家族様も、介護計画作成時には一緒に考えて下さることで、協力関係が生まれていると思われる。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外出が難しくなってきた方や、馴染みの場所が遠方の方などが増え、面会は時々あるが馴染みの関係の継続は難しくなっている。通信やホームに来て頂ける機会づくりを行うことで、関係が途切れない取り組みを行いたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>友人が訪ねてきてくれた際には、ゆっくり過ごしてもらえように居室へ案内し、椅子や飲み物を準備している。2ヶ月に一度、友人らの会合と一緒に出かける利用者があり、職員は、友人から次回の会合の日程を確認したり、出かける準備を手伝ったりしている。</p>	

自己評価表及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員はご利用者同士の仲の良し悪しを把握し、食後のティータイムや、家事活動をそれぞれの関係に合わせながら場面づくりを行っている。また利用者間のトラブルになりそうな場面を職員が共有し、職員が調整を行うことで回避できるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームを退居され、他の事業所へ移られる時も、情報提供を行ったり、御家族にも相談対応出来る旨を説明している。また、介護支援専門員とも情報交換を行い、サービス終了後もフォローが行えるよう取り組みを行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別の記録に思いや言葉を記入する欄をつくり、日常の会話の中から出来るだけ本人の想いを聞き取るようにし、記録することで、職員間で把握できるように努めている。それによって散髪や希望の夕食、買い物等を行っている。また利用者それぞれに希望の献立を聞くなど、想いの把握に努める事を大事にしている。御本人が意思を伝達できない方には、御家族様にお聞きしたり、以前の好みから推測するなどにて対応している。 (外部評価) 重度の方で、自分の意見をうまく表現できない方については、元気な頃の希望を参考にして、本人の気持ちになって考えるようにしている。介護記録の様式は、時系列で「出来事」「言葉・ケアプラン」の欄を設けている。現在は、職員の記入については個人差があるようで、管理者は、今後記入内容の充実に取り組み、利用者の思いの把握につなげたいと考えていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 介護計画作成時にご家族と一緒に検討し、色々なお話を聴ける機会が得られている。今後も本人やご家族との会話の中から必要な情報が得られるよう、個人記録を活用して記入し、情報共有できるように取り組みたい。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎月の職員会で利用者それぞれの生活の様子について話しあい、職員間で情報を共有しやすいようにしている。日々の中で変化があったことについては、日誌に記入し、対応方法を検討して記入できるようにすることで、情報の把握が出来るようにしている。	

自己評価表及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画は3ヶ月毎に計画作成担当者と担当者が協議して原案を作成し、ご家族様の意見を伺って修正を行っている。毎月の職員会では、全職員で介護計画の確認を行い、意見を取り入れながら見直しや評価を行っている。また介護計画はその方の想いを聴き取り、生活に即した内容となるよう注意している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の見直し時期には、家族と一緒に利用者の暮らしや介護のあり方について話し合う場を設けている。介護計画実施チェック表には、利用者全員の介護計画の内容を記入しており、日々の介護記録のファイルに綴じて確認している。又、毎日、実施した人、確認できた人が○を入れてチェックしている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個々の記録には想いや言葉を記入する欄を設け、さらにケアプランの実践内容も記入するようにしており、結果や気づき、本人の想いを記入することで職員間で情報を共有できるようにしている。また日々の中で起こる課題に対しては、日誌に対応方法を記入する欄を設け、実施、評価を行えるようにしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況にあわせ、職員で通院の支援をしたり、希望の外出や外食を出来るようにしている。また本人や家族の要望なども取り入れ、買い物や手続きなどを代行したりしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近隣の小学校と交流したり、近所の喫茶店の方や美容室の方など少しずつ地域の方々の協力が得られてきている。また近隣の社会福祉施設の配食サービスを行事の際に活用するなど、地域資源も増えてきている。今後さらに利用者が希望する生活を送ることができるよう、地域にある資源を把握し、関係性を深めていけるよう働きかけを行っていきたい。</p>	

自己評価表及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や御家族が希望している医療機関に受診できるよう、入居時に確認をとり、連携が取れるように働きかけている。医療機関によっては訪問診療に来ていただけるところもあり、複数の医療機関との関わりを持たれる方もおられる。それぞれの受診内容を毎月ご家族に手紙で報告を行い、安心して頂けるように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の日頃の様子を医師に報告して相談しながら、日中、できるだけ活動に参加できるよう支援することで、夜間よく眠れるようになり、入眠剤の減薬につながったような事例がある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事業所に看護資格のある職員も配置されており、日々の健康管理や医療面での相談も行えている。また、利用者それぞれの主治医の医療機関の看護師とも気軽に相談ができ、状態変化時には相談や対応を依頼している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が病院に入院される場合には、入院時に本人に関する情報や支援方法に付いても医療機関に提供するようにし、入院中の本人のストレスや負担が軽減できるように取り組んでいる。また医療機関の相談員とも連携を図り、ホームで対応可能な段階を相談することで、早期の退院ができるよう支援している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族には緊急時や終末期においての意向の確認アンケートを行い、現時点での方針について確認を行っている。またターミナルが予測される段階の利用者に対しては、御家族と主治医、管理者が話し合うようにし、その結果を基にして職員会で話し合い、チームとしてどう支えていくか検討している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>終末期の希望については、入居時に本人や家族に聞くこともあるが、主には入居後、しばらくして本人や家族との信頼関係を構築してから「終末期意識調査票」を用いて、希望等の把握に取り組んでいる。「大切にしたいこと」「これだけは嫌なこと」等、選択する項目を設け、自由記述欄も作っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生に備えて、マニュアルを整備し、必要な機材の整備も進めている。職員採用時や年に1回は緊急対応についての勉強会も行っている。しかし不安に思っている職員もあり、継続して学ぶ機会をつくる必要はある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを整備し、3ヶ月毎に避難訓練を実施している。海岸に面している為、津波に対する避難訓練も取り入れ、地震、津波、火災の複合的な訓練を実施している。大分スムーズな避難が行えるようになってきていると思われるが、職員だけの避難には限界もあり、地域との共同した災害対策を相談させて頂いている。	
			(外部評価) 3月に行った避難訓練では、地域の方にも見学してもらった。事業所全体での避難訓練の他に、新人職員の入職の際には、管理者と新人職員のマンツーマンで、災害時のマニュアルをもとに研修を行っている。全職員が避難訓練を体験できるように、今後は避難訓練の回数を増やしたいと話していた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室に訪室する際はノックをしたり、年長者としての言葉遣いに注意する等、入社時や職員会議時などに都度点検、話し合いを行っている。またそれぞれの生活リズムや体調に合わせて支援するようにし、食事や入浴について無理強いすることがないように取り組んでいる。しかし、難聴の利用者などへの声掛けの声が大きく、御本人の誇りへの配慮が不十分と思われるため、話し合いを行っていきたい。	
			(外部評価) 個人的なことを話す時には、居室で話すように気を付けている。おやつの際には、飲み物を複数提示して選んでもらえるよう支援している。食後の後片付け、洗濯たたみ、裁縫の得意な方には繕いもの等をお願いして、利用者の役割を大切にしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の中での声掛けにも選択性を持たせることを大事にしている。その中でも希望の献立と一緒に本を見ながら決めたり、毎週選択できる喫茶の日を設けるなどの取り組みを行っている。毎月の外食は写真にして店を選ぶことが出来るようにして、話し合っって行き先を決めるようにしている。	

自己評価表及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 時間で決めたりはせず、その時々の方の意志を尊重するようにし、食事の時間なども利用者によって時間をずらしたり、その時にしたいことを支援する等、一人一人のペースを大事にしている。しかし、全員の希望を実現するまでには至っておらず、一人一人の希望を確認しながら実現できるように取り組みたい。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 希望される方にはご家族と相談して一緒に服を買に行ったり、散髪に出掛けたりしている。また化粧水やシャンプーなどの希望を一人ずつ確認し、実施できるように取り組んでいる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立は毎月利用者一人一人に希望の食べたいものを聞き、食べたいものが食べられるように取り組んでいる。また外食の際にも利用者の方々に食べたいものの希望を聞き、好きな食べ物が食べられるように支援している。日常の食事は一緒に調理を行える方が少なくなってきており、片づけ等を一緒に行うことで食事に関する参加が続けられるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 朝食を食べる習慣のない方には準備はするが、無理強いしないように気を付けている。利用者の食べたいものの希望を反映しやすいように、メニューは2週間分ずつ作っている。調査訪問時、利用者からリクエストがあった栗ごはんが食卓に上っており、職員はリクエストした方に「さんから希望があった栗ごはんです」と伝えていた。職員が食事の後片付けをしていると、利用者の一人が「それ手伝うよ」と声をかけて食器やお盆を拭いていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は主菜と副菜2品を毎食提供するようにし、1日30品目を目標として献立を立てている。利用者個別に食事量や水分量を記録するようにし、摂取量の把握に努めている。また利用者個々の状態に合わせて、食事の量を調整したり、食事を拒否する方に好きな物をお出ししてみたり、栄養を補助できるように工夫を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人一人の状態に応じて準備や声掛け、必要な方へは介助を行うようにし、就寝前には義歯の洗浄を行うようにしている。	

自己評価表及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別の排泄の状況を記録することでトイレ誘導のタイミングを把握している。尿意がなく車椅子利用の方も、パターンを把握して2人介助でトイレ誘導を行い、失敗なく排泄が行えている。ご利用者の中には、夜間トイレまで行くことを嫌がられる方もおり、ポータブルトイレを使用する等して対応している。 (外部評価) 夜間は、おむつを使用する方についても、日中はできるだけトイレで排泄できるよう支援している。退院時、リハビリパンツとパッドを使用していた方について、日々の歩行訓練や日中の活動への参加を支援し、トイレでの排泄ができるようになり、パッドの必要がなくなる等、状態が改善したケースがある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日午前中は乳製品を摂取していただいたり、水分量を記録し、少ない場合には好みのものや、適時摂って頂けるよう声掛けを行い、便秘の予防を図っている。また高齢でよく下痢をされる方には、主治医と相談しながら水分量や食事内容を見直し対応を行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の入る順番や習慣を個々に合わせて、マットで洗身したい方の希望にも合わせている。しかし、職員の都合で声掛けを行ったり、入浴を嫌がられる対応も不十分な為、更に検討工夫が必要である。 (外部評価) 利用者個々に、週3回は入浴できるように支援している。入浴があまり好きでない方は、家族に声かけをお願いしたり、入浴後に好きなおやつを用意する等して入浴につながるよう誘っている。朝食後、すぐに入浴したいと言う方もあり、できるだけ本人の希望するタイミングで入浴できるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中にそれぞれ役割活動を持って頂き、生活リズムが整うように努めている。その中で、利用者個々のその日の体調などに合わせて、自室やソファで休んで頂くようにしている。自室で休む際にも、個々の希望や状態に合わせて自室を整えたり、小まめに巡回する等して安心して休んで頂くようにしている。	

自己評価表及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が薬の内容を把握できるよう、薬の説明書を個人ファイルに整理して保管している。また、薬の処方が変更された場合には申し送りや医務連絡ノートを活用し、全員が周知できるように取り組んでいる。服用時は服薬チェックシートに記入し、2名が確認することで飲み忘れなど無いよう対応を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の中で聞かれる利用者さんの希望にはその都度対応できるようにし、買い物や散髪、嗜好品などの購入ができるようにしている。またそれぞれの状態や得意なことなどを考慮しながら役割をそれぞれ持たせていただき、声掛けしてお願いしながら感謝の言葉を伝えるようにしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には海岸線を散歩するなどして気分転換が図れるようにしている。毎月行事では季節を感じられたり、個々の楽しみを考慮して外食や喫茶、地域の行事などの外出できる行事を企画している。ただ外出が困難なご利用者が増えたことで、個別的な外出が多くなり、外出回数が少なくなっているため、検討が必要である。	
			(外部評価) 桜やコスモス等の季節の花を見に行ったり、月1回は外食に出かけられるよう支援している。近所を散歩できるよう支援しており、調査訪問時も職員と海岸沿いを散歩する利用者の様子が見られた。お隣に喫茶店ができ、ケーキが好きな方は時々おやつを楽しみに出かけており、店主とも顔なじみになっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と相談してお金を所持されている利用者の方もおられるが全員ではない。所持されている方は嗜好品の購入をしたりされている。今後は所持されていない方にはお金を使う機会が持てるように、買い物時に支払をしていただくなどの取り組みを増やしたい。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎年年末には利用者一人一人が御家族に年賀状を送れるように、出来る人にはいっしょにハガキを購入したり、写真を載せるなど楽しみを持って行えるように支援し、ご家族様から大変喜んで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共有空間には利用者が昔作っていたちぎり絵の作品を飾り、季節のイラストや飾り付けを行い、食堂には毎月の行事の写真を飾り、利用者同士で話を弾ませている。共有空間の窓からは海や花壇を見ることができ、季節を感じながらお話されることもある。またリビングや食堂の配置は、利用者同士が交流しやすく、居心地良く過ごせるように心掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間の北側の窓からは、海が眺められ波の音もする。又、南側の窓からは、山が見えて風通しもよい。壁面には、夏祭り等のイベント時の写真や地元小学校の広報誌を掲示している。台所からは食事を作る匂いがしており、利用者は居間で多くの時間を過ごしている。廊下の作品は車椅子の利用者の方も見えるように、低い位置に掲示している。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>廊下や玄関に椅子を置き、独りで座って落ち着かれたり、玄関の椅子に座って外を眺められるなど、利用者それぞれの過ごし方ができている。また、喫煙される方には、ベランダ口にテーブルを置き、ゆっくりと過ごしていただけるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みのタンスや、昔作っていた作品、琴等を持ってきていただいたり、日常で製作した作品を飾る時などには、利用者に配置を聞くようにしている。ご利用者によっては、カーペットを敷き、その上でくつろがれたり、御家族からの絵のプレゼントを飾られ、楽しまれている方もおられる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族との会話から、利用者本人がちぎり絵の先生をしていたことがわかり、当時の作品を持参してもらって居室や玄関、廊下に飾っていた。調査訪問時には、裁縫の得意な方が居室で自分のシーツカバーを縫っていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>廊下には自室が分かりにくい利用者の方の目印になるよう自室入り口に絵を飾ったり、自宅に居た頃と同じ目印を作るなどして、本人が確認しやすい工夫をしている。また、食事が自力で食べられるようその人にあった椅子に変えてみたりテーブルの高さを調整するなど、一人一人の状態に合わせた環境作りに取り組んでいる。</p>	